かがわ文化芸術祭2018参加公演

TAKAMATSU SYMPHONY ORCHESTRA Since 1951

高松交響楽団
第120回定期演奏会

2018 11.18 日　開演 14:00

香川県県民ホール　大ホール
[レクザムホール]

主催：高松交響楽団（TSO）
協力：高松国際ピアノコンクール組織委員会
後援：朝日新聞高松総局、産経新聞高松支局、山陽新聞社、四国新聞社、毎日新聞高松支局、読売新聞高松総局、OHK 岡山放送、KBN 香川テレビ放送網株式会社、CMS ケーブルメディア四国、RSK 山陽放送、KSB 瀬戸内海放送、CVC 中讃テレビ、TSC テレビせとうち、RNC 西日本放送、FM 香川、FM815、香川こまち、高松リビング新聞社、ナイスタウン出版、香川県、高松市

Profile

指　揮　田中　一嘉　*Kazuyoshi Tanaka*

東京生まれ。桐朋学園大学音楽学部卒業。指揮を故斎藤秀雄、小澤征爾、秋山和慶、尾高忠明の各氏に師事。コントラバスを江口朝彦、堤俊作の両氏に師事する。在学中より同大オーケストラ定期演奏会、オペラ公演等を指揮し、故斎藤秀雄、森正、秋山和慶の各氏及びブローダス・アール氏、河里予俊達氏、フランコ・フェラーラ氏らの指導を受ける。学外では、日本オペラ協会、長門美保歌劇団、東京アカデミー合唱団指揮者として、数多くのオペラ、合唱曲、特に宗教音楽分野での実績を積む。1976 年、大学在学中に第 4 回民音指揮者コンクール（現東京国際音楽コンクール）入選、奨励賞受賞。卒業後、東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団指揮者、群馬交響楽団指揮者を歴任。これまでに、国内主要オーケストラを初め、1992 年にはヤナーチェク春の音楽祭（チェコ・オストラヴァ）にてヨーロッパデビュー。1995 年にはカルロビ・ヴァリ交響楽団を指揮、2000 年ドイツ・ロットヴァイル夏の音楽祭、2001 年ベルリン日本週間での公演、2003 年ウィーン・ムジークフェラインザールでの日墺合同第九演奏会等その活動は多岐に及んでいる。現在、昭和音楽大学講師。また、かがわ・ジュニアフィルハーモニックオーケストラ（KJO）の指揮者陣を務めている。

ピアノ　カンテ・キム　*Kang Tae Kim*　第４回高松国際ピアノコンクール２位

大韓民国出身。1997 年生まれ。ソウル芸術高等学校を経て、国立ソウル大学校音楽大学 2 年次在学中。
毎年、オーディションを通じて選ばれる韓国・京城道の若手芸術家の一人として、京城アートセンターにて、ソロリサイタルを含む多数の公演に出演している。コンクール受賞歴としては、韓国国内にて、2016 年、MBC 釜山放送音楽コンクール 1 位受賞し釜山市民交響楽団と共演。2017 年、チリサン国際音楽祭コンクール 1 位、スリ音楽コンクール グランプリ。中国にて　2016 年、BIMFA 北京国際音楽フェスティバル＆アカデミー　1 位。イタリアにて、2017 年、アマルフィ海岸音楽芸術祭　マストロヤンニ賞。日本国内では、2008 年、大阪国際音楽コンクール 1 位。そして、今年 2018 年 3 月に開催された 第 4 回高松国際ピアノコンクールにおいてファイナリストに選出され、本選にてベートーヴェンのピアノ協奏曲第 5 番「皇帝」を演奏し 2 位を受賞。

コンサートマスター　福崎至佐子　*Hisako Fukuzaki*

東京芸術大学音楽学部器楽科卒業。ヴァイオリンを故 神崎初美、故 巌本眞理、故 岩崎洋三、ボヤン・レチェフ、徳永二男に、室内楽を故 ルイ・グレーラーの各氏に師事。日本フィルハーモニー交響楽団を経て 1972 年、新日本フィルハーモニー交響楽団アシスタントコンサートマスターに就任。コンサートマスターのルイ・グレーラー氏と弦楽四重奏を組みＴＶ、ＦＭ東京、ＣＭ、映画音楽、レコーディングに活躍する。1985 年、高松に帰郷し、ゴールドブレンドコンサート、四国二期会オペラ、四国学院大学メサイア演奏会などでコンサートマスターをつとめる。現在、高松大学名誉教授。かがわジュニア・フィルハーモニックオーケストラ（KJO）音楽監督。高松交響楽団常任コンサートマスター。新日本フィルハーモニー交響楽団団友。日本演奏連盟会員。日本クラシック音楽コンクール・全四国音楽コンクール・山陽学生音楽コンクール等審査員。平成 13 年度「香川県教育文化功労者表彰」、第 42 回「四国新聞文化賞」、平成 16 年度「香川県文化功労者表彰」受賞、第 67 回「山陽新聞賞（文化功労）」受賞。平成 21 年度地域文化功労者文部科学大臣賞受賞。第 20 回（2011 年）第 23 回（2014 年）日本クラシック音楽協会優秀指導者賞受賞。2016 年福山音楽コンクール「優秀指導者」受賞。平成 29 年度よんでん芸術文化功労賞受賞。

管弦楽　高松交響楽団　*Takamatsu Symphony Orchestra*

1951（昭和 26）年 8 月、故 緒方益圀氏が県内の有志を募って創立。同年 11 月香川県公会堂において第 1 回定期演奏会を開催し、高松に初めてオーケストラの灯を燈す。爾来、半世紀以上に亘る活動を続け、2021 年に創立 70 周年を迎える。今回で 120 回を迎える定期演奏会をはじめ、県内外での特別演奏会、青少年を対象にした音楽教室の実施、香川県県民ホール開館 20 周年記念オペラ「蝶々夫人」全幕公演（2008 年）、サンポートホール高松開館 5 周年記念「カルミナ・ブラーナ（バレエ付き）」公演（2009 年）をはじめ、オペラ・バレエ等の他団体や地元音楽家との共演など地域に深く根ざした幅広い活動を積み重ねている。2001 年に迎えた創立 50 周年を機に新たな半世紀に向けた取り組みとして、高響団員を中心に新たに編成された「コレギウム・ムジクム高松」、「高松オペラシティ・オーケストラ」などの多面的なオーケストラ活動を展開している。さらには 2001 年より香川県の主催事業となった「かがわジュニア・フィルハーモニックオーケストラ（KJO）」、2003 年 1 月に設立された「丸亀シティフィルハーモニックオーケストラ（MCO）」への演奏・運営面での全面協力など、地域音楽文化の核ともいえる重要な役割を担う香川のマスター・オーケストラとして様々な取り組みを行っている。1987 年、地方文化の発展に大きく貢献した功績から音楽団体として四国で初めての「地域文化功労者表彰」を文部大臣より受賞。2008 年、香川県より栄えある第 1 回「文化芸術選奨」を受賞。現在、オーケストラの団員数は、約 150 名。

Greeting ごあいさつ

皆様、ようこそお越し下さいました。

今回の演奏会では、古典からロマン派、現代音楽に至る長い系譜を持つドイツ・オーストリアの音楽の中から、珠玉の３曲（深遠なる牧歌・雄大なるコンチェルト・壮大なるシンフォニー）を演奏いたします。

指揮者には、これまで数多く当団に客演され、当団が全面的に協力しております「KJO かがわ・ジュニアフィル」の指揮者陣も務める田中一嘉氏を招聘するとともに、ピアノには、今年３月開催の第４回「高松国際ピアノコンクール」で、２位を受賞した若きピアニスト カンテ･キム氏を招聘し、同コンクール本選で演奏したピアノ協奏曲「皇帝」を演奏します。どうぞ最後までごゆっくりお楽しみください。

Program

大管弦楽のための牧歌「夏風の中で」（ウェーベルン）

アントン・ウェーベルン
（1883～1945）

ウェーベルンは、20世紀の作曲家の中でも、最も前衛的で精緻な作風を持つ作曲家の一人として知られています。本日演奏する「夏風の中で」は、1904年に作曲されておりウェーベルンの初期の作品です。このため、多少前衛的ではありつつも、ワーグナーやマーラー等、前時代のロマン派の作曲家の影響も多分に残した、とても聴きやすく美しい音楽ですが、もう一つのウェーベルンの特色である「精緻さ」は既に存分に発揮されています。彼は後に「音楽は、瞑想の中から生まれるものでなければならない。」という趣旨の事を書き残しているのですが、恐らく、この精緻な作品も深い瞑想の中から生み出されたものなのでしょう。曲は、深く瞑想するようなところから立ち上ってきて、やがてのどかな牧歌となり、様々な葛藤を経つつ、再び瞑想的な世界へ戻っていきます。まさに「深遠なる牧歌」と言えるでしょう。

ピアノ協奏曲第5番 変ホ長調「皇帝」（ベートーヴェン）

L.v.ベートーヴェン
（1770～1827）

「皇帝」の通称で親しまれるこの曲は、1811 年にライプツィヒ・ゲヴァントハウスにて公開初演されました。初演は不評に終わりましたが、後年フランツ・リストが好んで演奏したこともあり現在では最もポピュラーな名曲の一つになっています。

ベートーヴェンは生涯で５曲、ピアノ協奏曲を作曲しましたが、「皇帝」は唯一ベートーヴェン自身のピアノ演奏による初演が叶いませんでした。当時､ベートーヴェンが住んでいたウィーンがナポレオン率いるフランス軍に攻め込まれ、爆撃音によって難聴が重症化したためです。「皇帝」という通称は時代的にナポレオンを想起させますが、前述の背景からベートーヴェンがナポレオンや皇帝を意識したとは考えがたく、同世代の作曲家でピアニストのクラーマーという人物が、当楽曲から抱いた堂々とした印象から付けたものと言われています。時代の陰鬱な空気を感じさせない、まさに「皇帝」の名がふさわしい「雄大なるコンチェルト」です。

第１楽章　Allegro　冒頭部分は多くの方が一度は耳にしたことがあるのではないでしょうか。オーケストラの堂々とした和音のあと、いきなりピアノ独奏が入ります。同様のやりとりをあと２回繰り返すと、オーケストラにより第１主題が提示されます。次いで短調で第２主題が提示・展開されてから、ようやく本格的にピアノ独奏が始まります。通常、ピアノ協奏曲はカデンツァ（オーケストラ無しで、独奏者が即興のように演奏する部分）が聴かせ所ですが、この曲はベートーヴェン自身により「カデンツァは不要」と指示されています。全体を通して伝統と新しさを併せ持った、いかにもベートーヴェンらしい楽章です。

第２楽章　Adagio un poco mosso　この楽章はロ長調で、第１・３楽章の変ホ長調からは遠い調性であり、かなり斬新です。弦楽器により瞑想的なメロディがしばし奏でられ、やがてピアノが加わります。変奏曲形式となっています。聴いていて敬虔な気持ちになる楽章です。楽章末尾では、次の楽章の主題を予告し、そのまま途切れることなく第３楽章へと移っていきます。

第３楽章　Adagio un poco mosso　ピアノのエネルギッシュで軽快なメロディで始まり、オーケストラも続きます。同じメロディが繰り返し出てくるのでロンド形式のようですが、楽章自体は典型的なソナタ形式になっています。終盤、ティンパニが伴奏する中でピアノが静まっていくところが印象的です。このまま静かに終わると思わせますが、最後に猛然と盛り上がり終結します。

交響曲第8番 ハ長調 「グレイト」（シューベルト）

フランツ・シューベルト
（1797～1828）

この交響曲には「グレイト」という副題がついていますが、その由来は、元々は、シューベルトは、ハ長調の交響曲を２曲（６番と８番）書いており、規模の小さかった６番が「小ハ長調」、８番が「大（＝グレイト）ハ長調」と呼ばれただけに過ぎません。しかし、第８番は当時の交響曲全てと比べ、演奏時間は60分近くに及びベートーヴェンの「第九」に匹敵するほど長大で、楽想はスケールの大きさと力強さが際立ち、色々な楽器の使い方も華麗で、結果として「グレイト」の副題にふさわしい「壮大なるシンフォニー」となっています。

ところで、この交響曲、作曲がなされた当時は初演も出版もされることなく、そればかりか、作曲から数年後シューベルトは31年の短い生涯を閉じてしまい、お蔵入りとなってしまっていました。それを発掘したのは少し後世の作曲家・音楽評論家のシューマンでした。彼が、シューベルトの家族を訪ねた際、この曲の楽譜を発見し「これは素晴らしい作品だ！」となったわけです。そして、友人で、作曲家・指揮者のメンデルスゾーンの指揮によって初演され世に出ることと相成りました。シューマンとメンデルスゾーンというドイツロマン派の２人の偉大な作曲家がいなかったら、今頃この曲の楽譜は散逸してしまい、聴く事も演奏することも出来なかったことでしょう。

第１楽章　Andante - Allegro ma non troppo　序奏とソナタ形式の主部から構成されています。ホルンが悠々と序奏を吹き全曲の幕をあけます。ゆったりとした情景が広がりますが、徐々にテンポが速くなり主部へ入ります。通常のソナタ形式では主部の主題は２つですが、この楽章では「３つ」の主題が出てきます。この点でもスケールの大きさが分かります。第１主題は、弦楽器の弾むような音型に管楽器の３連符が快活に応答します。第２主題は、木管楽器が奏する少し物悲しいけれどどこか軽妙さもあるメロディです。第３主題は、序奏音型に基づく音楽をトロンボーンが吹奏します。全体を通して、特に、どっしりとした逞しさ、壮大さのある楽章です。

第２楽章　Andante con moto　２つの主題が交互に出てくる形式（ＡＢＡＢＡ）によるゆっくりとした楽章です。Ａの主題は、低音弦楽器の独特な雰囲気の導入に続いて，オーボエが演奏する趣深いメロディです。Ｂの主題は，第２ヴァイオリンによる、下降音階のあたたかみを帯びた美しい歌で、このあたりは、シューマンが、「天の使いのようだ」と絶賛したそうです。そういう部分を経て、２回目のＢの前に、音楽が緊迫し、暗い谷底へ落とされた様な雰囲気になりますが、再び立ち上がりゆっくりと歩き始めます。

第３楽章　Scherzo. Allegro vivace　３部形式（ＡＢＡ）による音楽です。Ａは、弦楽器の「ザクザク」とした音型でエネルギッシュに始まります。オーストリアの森で大男が踊っているような、非常にダイナミックで楽しい音楽です。Ｂでは、歌曲王シューベルトならではの「歌心」全開で、木管楽器が美しいメロディを歌い続け、ずっと聴いていたい気持ちになりますが、３部形式の定石通りＡが戻ってきます。

第４楽章　Finale. Allegro vivace　ソナタ形式による1154小節にも及ぶ長大な終曲です。階名で「ドッドミー！」と威勢よく始まり、それを弦楽器が静かに「ミドミソ」と受けます。第１主題は大方がこの２つの音型のやり取りを中心に進みます。さらに、第２主題は、同音反復（ドー　ドー　ドー　ドー等）で始まり、それはずっと鳴り続けます。このように、非常に単純明快な楽曲構成であるにも関わらず、聴き手を飽きさせず、心地よい興奮へと導くあたり、シューベルトの「天才性」が光ります。あと、楽章途中、ベートーヴェンの「第九」によく似たフレーズが出てきますので耳を澄ませてお聴き下さい。これはベートーヴェンへのオマージュです。やがて、この壮大なるシンフォニーは「ドッドミー」「ミドミソ」「同音反復」の３つに集約されてゆき、迫力あるフィナーレへ向かいます。

【高響倶楽部法人会員】
社会福祉法人 サマリヤ
四国岩谷産業 株式会社
香川トヨペット 株式会社
ネッツトヨタ高松 株式会社

スタインウェイピアノ 香川県正規特約店
有限会社 高松ピアノ工房
ピアノ・オーバーホール・調律・修理・レンタル
■ショールーム／
高松市木太町７区3685 TEL087-833-6049
■工場／
高松市木太町７区3464 TEL087-833-9433

各種行事の記録ビデオ制作をはじめ映像情報コンテンツの制作なら
株式会社 よんでんメディアワークス
TEL (087) 818-1071
FAX (087) 818-1072
URL http://www.ymw.co.jp
E-mail info@ymw.co.jp
Edit your dream with Media Works.

楽器堂
GAKKIDO CORPORATION.
www.gakkido.jp
音楽、始マル。

いい音楽との出会いを大切にします
ピアノ 管楽器 弦楽器 ギター ベース 打楽器 及び楽譜販売
楽器堂オーパスイオンモール高松店
高松市香西本町1-1イオンモール高松1F
TEL：087-832-8016
楽器に関するご相談、何でも受付中です！